

平成 30 年度 第6学年 授業改善推進プラン

	課題(児童の実態、学習状況、指導の実態)	改善プラン(課題の改善プラン、具体的手立て)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字は習得できており、漢字テストでは正答できるが、既習漢字や熟語等を文章中に活用できない児童がみられる。 ・物語文では登場人物の心情や心情変化、主題を読み取ることでできない児童がみられる。また、説明文では要旨を捉えられない児童がみられる。 ・自分の考えをもてても、相手に分かりやすいように伝えることを苦手とする児童がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字練習時や教科書等で出てきた熟語の意味を調べさせ、語彙力をつける。また、普段から既習漢字や熟語を意識して使わせるため、日記や作文、新聞を書く活動の際には、添削して書き直しをさせる。 ・文章を読む時間、個人の考えをまとめる時間を十分に確保する。文章中の大切な部分には線を引ながら読み進めるよう支援し、物語の「起承転結」や説明文の「はじめ・中・終わり」を意識して読む活動を取り入れる。 ・ペアやグループで意見交換をする時間を設け、様々な考えがあることに触れ、自分の考えを広めたり、深めたりできるようにする。友達の意見を聞くときには、自分の考えとの共通点や相違点を見つけながら聞くことを意識させる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組む児童が多いが、単元(小単元)が進むにつれて意欲が低下してしまう児童が見られる。 ・知識として必要な用語などに落ちや抜けがある。 ・単元(小単元)の終末場面で学習問題に対する自分の考えを導き出す際、それまでに調べて分かった会的事象の羅列となり、社会的事象を関連付けたり、総合させたりすることができない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題を確認してから授業を開始するなど、常に何を解決するための時間であるのかを児童に意識させながら調べ学習を行うようにする。 ・習得しておかなければならない最低限必要の用語や語句をリストアップし、日々の授業で意図的に指導する。学習後においても作業的な活動やドリル学習などを通してくり返し取り上げ、確実に身に付けられるようにする ・小単元の終末場面では、調べたことを整理し、そこから考えたことを友達と交流する時間を設けるとともに、初めの学習問題に立ち返ってまとめるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・各習熟度別コースに分かれ、意欲的に学習に取り組む児童が多い。ただ、初めから分からないものとして考えてしまっている児童もいる。 ・自分の考えの根拠を図・式・言葉・操作などで表し、それらを用いて説明できるようになってきているが、互いの考えを共有し、より良いものにしていこうとする態度や、解決過程を他者に伝えるように筋道立てて説明することにまだ課題がある。 ・基本的な技能については身につけているが、問題場面を把握し、的確に式に表現したり友だちの考え方を読み取ったりすることに課題がある。 ・問題解決学習にはすすんで取り組むが、基礎的な技能の習熟が課題である児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童自信が問いを持つことができるように発問や提示の工夫をし、児童が見出した価値のある考え方を共有することができるように板書の工夫をする。 ・必要感のある場面でペア学習やグループ学習を効果的に取り入れ、どの児童も発言できるようにする。 ・数学的な考え方の育成を意識し、対話を通し互いの考えを「共有」できる授業展開を行う。 ・自分が考えた過程を記述して残り、次時以降に活用することができるようにノート指導を徹底する。また、よいノート記録についても全体で共有していけるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や調べ学習に意欲的に取り組む児童が多い。 ・実験の様子をよく観察できるよう3,4人のグループで実験を行っている。 ・日常生活の中で抱く疑問を、授業内で解決しようとしていたり、生活経験から実験の予想をたてたりする力が付いてきている。 	<p>身近に存在するものや、生活場面につながるものを教材化し、実感のある学びを心がける。実物の用意が難しい単元は、ICT教材を効果的に活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ児童ばかりが実験を中心に進めるのではなく、全員が満遍なく実験器具等に触れ、操作の仕方や過程を身に付けられるような展開にしていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・響きのある歌声で歌うことができる児童が多いが、パワーをもって力強い歌声で歌うことができる児童は少ない。 ・いろいろな楽器を演奏することや、みんなで合奏をすることが好きで、楽器を器用に演奏することができる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発声練習で息の使い方の練習をしたり、体の使い方を指導したりする。また、合唱の際、どんな気持ちで歌いたいのか、どんな表現をしたいか、考えさせて思いをもって歌うことができるようにする。 ・器楽演奏や合奏の際、自分たちで教え合ったり、表現の工夫を考えたりして、音を合わせる楽しさを児童がさらに実感できるようにする。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童は造形活動に意欲的に取り組み、課題に対して自分の考えをもち、表し方や材料用具の使い方を工夫出来ている。反面、自分の考えに自身が持てず、表す段階にまで至らない児童もいる。 ・材料用具の危険性について、認識不足な児童がいる。 ・お互いの表現について、「すごい」「いいね」など認め合う様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動は、人生を豊かにするためのものであって、苦しめるものではないという前提に立ち、活動の停滞している児童に合わせた支援をしていく。(例)思いつかない→思いつくための手立てとして、友達と話す、資料を見る、課題を整理すること等を提案する。作れるか自信がない→適切な技法を伝える。 ・材料用具が持つ危険性や、具体的な事故事例を共有する。また、公共の場での材料用具の扱い方等も含めて児童と話し合いながら指導を行うことにより、児童にもものづくりの中での「思考力」「判断力」が身につくようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する意欲がとても高いが、苦手意識がある児童もいる。 ・学習の課題や自分のめあてを意識して運動に取り組んでいない児童が多い。 ・スポーツテストの結果より、男子・女子共に、握力、反復横跳び、ソフトボール投げが全国平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その運動を「やってみたい」と思うような導入を行い、意欲的に取り組めるように声かけを行う。 ・学習カードを活用して授業を振り返り、「何ができて、何ができて、何が次の課題なのか」明確にできるようにする。また、授業の終わりには振り返りの時間をつくる。 ・授業では主運動につながる準備運動の中で、体力テストで課題としている力が高まるような補助運動を取り入れていく。また、授業以外でも外遊びができるように声かけを行う。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、学習に集中できない児童が数名みられる。 ・これまでに自分たちが学んだことを生かして、実習に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、担任が家庭科室に入る。また、児童が興味関心をもてる学習展開するように努める。 ・身近な生活場面や自分の将来像をより明確にイメージできるよう具体的な事例や教材を用意し、実感のある理解を促す。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値について、登場人物の気持ちや様子を読み取り、考えることは得意である。一方で、分かっているも日常生活に生かすことができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを有効活用し、児童の心情の変遷を蓄積していく。学習が進むにあたって、児童自身がどのように変化したのかを記録として確認できるようにしていく。

